

「校長先生の知恵袋事業」

～学校長のマネジメント力による特色ある、魅力ある学校づくりの推進～

はじめに

情報化や国際化の進展に伴い社会が大きく変化し、学校教育にはこれまで以上に複雑、多様化する課題への対応が求められている。このような中、学校は、保護者や地域住民の協力を得て教育活動を展開し、子どもたちや保護者、地域住民から信頼される、地域に根ざした学校づくりに一層力を尽くす必要がある。

そのためには、校長の強力なリーダーシップのもと、家庭や地域と連携し、そのマネジメント力を生かすことで学校教育目標の具現化や様々な課題の解決に努め、特色ある、魅力ある学校づくりを推進することが必要である。

1. 「校長先生の知恵袋事業」の概要

嬉野市は、市内に小学校9校（うち分校1校）、中学校4校の計13校を設置している。嬉野市教育委員会では、『心豊かでたくましい嬉野っ子』を育成するための温故創新による具体的な6つのプラン、「嬉野っ子ワクワクデザイン」を毎年度作成している。平成20年度から、その中の重点事業の一つに「校長先生の知恵袋事業」を掲げ、学校長のマネジメント力を生かした魅力と特色ある学校づくりの推進を図っている。

本事業では、主に次の3つの活動の活性化を目的としている。

- (1) 自校の特色づくりに関する活動
- (2) 児童・生徒の学力向上に関する活動
- (3) 体験学習の充実に関する活動

〔(1) 自校の特色づくりに関する活動〕では、郷土学習や命の教育、国際交流等、〔(2) 児童・生徒の学力向上に関する活動〕では、漢字検定や英語検定料、学習教材の購入、講師謝礼等、〔(3) 体験学習の充実に関する活動〕では、米作りや稚魚の放流、陶芸体験等の取組が、それぞれ各学校の教育課程と関連させ行われている。

また、本事業に係る費用は市の予算から支出しており、毎年度1～2月に各学校長が立てた次年度の実施計画に沿って、校長によるプレゼンテーション審査を行う。審査では、3つの活動に関したものであるか、各学校の特色や魅力を生かした学校づくりにつながる活動であるか等を審査し、各学校の予算配分を決定している。



うれしの新次代の学校づくりを目指して



嬉野市教育委員会

学校教育において自ら学び・考え・行動する力を育み、うれしの新次代を創る『心豊かでたくましい嬉野っ子』を育成します

～温故（不易）と創新（流行）による具体的なプラン～

プラン① 確かな学力の育成事業

- 1) 嬉野メソッドの実践と学習習慣の定着（温故）
 - ・ 主体的・対話的で深い学びを取り入れた「嬉野メソッド」の徹底を図る。
 - ・ 「学びの習慣づくり」の活用により、自主学習など市内小中学校共通した取組を推進する。
- 2) 新学習指導要領に合った新たな学習内容の充実（創新）
 - ・ 小学校で得意教科教員を活用した指導方法の研究と実践を行う。
 - ・ 特別な教科指導の指導方法及び評価方法の深化を図る。
- 3) 読書引き学習の展開と充実（温故）
 - ・ 読書引き学習を通して、自分なりの力で解決する楽しさの体得と学習意欲の醸成を図る。
- 4) タブレット端末を活用した授業の充実及びオンライン授業の試行・習熟を図る。

プラン② 豊かな心の教育推進事業

- 1) 嬉野市副読本「生きる力の教科書」の活用と充実（温故）
 - ・ 3年取組となった「生きる力の教科書」を活用した指導の実践・深化を図る。
 - ・ 小・中から中までの4年間で、社会を生きぬくための自己解決力・自己防衛力等の知識と知恵を養育させる。
- 2) 「嬉野学」の実践とSDGsの取組の充実（温故）
 - ・ 生活科や総合的な学習の時間において、嬉野の特産である「お茶」に関する学習等を通して地域学習を積極的に展開し、嬉野市を愛する心や気質を高める心の教育を推進する。
 - ・ 持続可能な教育活動(SDGs)の理念の増加を図り、学校での実践を推進する。
- 3) 文化芸術等の運動公演事業の積極的取組の取組（創新）
 - ・ 巡回公演事業を積極的に取組し、優れた文化・芸術に直接触れさせることにより、豊かな心の育成を図る。

プラン③ たくましい心身の育成事業

- 1) 学校体育や健康教育の充実（温故）
 - ・ 各学校で全道調査等に基づいた体力向上のための目標を設定する。
 - ・ 県教委主催によるスポーツチャレンジ事業に積極的に参加し、児童の運動に対する意欲と体力を高める。
- 2) 食育の推進（創新）
 - ・ 学校、家庭、地域と連携して、望ましい食習慣を身に付けさせるための指導を推進する。
 - ・ 朝食摂取率100パーセントを目指す。
- 3) 規正正しい生活習慣の推進（温故）とコロナ禍における感染対策の充実を図る（創新）
 - ・ 「規正」取組を「規正」に取組み、1日の生活リズムの確立を図る。
 - ・ 不登校対応コーディネーター及び教育相談部会等を中心に不登校が増加傾向にある原因とその対策について協議し、それぞれの実施に向けた取り組みの強化を図る。
 - ・ コロナ禍における感染防止を重視した「新しい生活様式」の定着を図る。お茶の「ふくみ飲み」の推進。

プラン④ 特別支援教育等の推進事業

- 1) 特別支援教育の充実と深化へ（温故・創新）
 - ・ 特別支援教育についての教職員の理解を深め、学校全体の組織的な指導体制の構築を図る。
 - ・ 児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持つ力を高め、生活や学習上の困難を改善、又は克服するために、個に応じた支援の充実を図る。
 - ・ 子どもの生きがいが多様化している現状に鑑み、LGBTについての研修を行い、教職員の理解を深め、発達段階に応じた指導実践につなげる。
- 2) 幼保から小への滑らかなつながりを高める早期からの教育相談・支援の充実（創新）
 - ・ 早期支援コーディネーターを活用し幼児期からの教育相談を実施し、保護者、幼稚園・保育園、小・中学校、並びに関係機関との連携を強化し、児童にとってより望ましい、進学先が選択でき、充実した学校生活への実現を図る。
 - ・ インクルーシブ教育等、特別支援教育に関する研修の機会を増やし、教職員の理解を深め、児童生徒への指導力・支援力や保護者への対応力等、資質の向上を図る。

プラン⑤ 校長先生の知恵袋事業

- 1) 校長のマネジメント力による学校の教育的課題の解決（創新）
 - ・ 児童生徒の体験活動を充実させ、特色ある、しかも魅力ある、行きたい学校づくりを推進する。
 - ・ 校長の学校経営ビジョンに基づく実施計画のプレゼンテーションを審査し、校長の独自性・主体性を生かした学力向上対策などの取組を推進する。

プラン⑥ ろく・さんプラン教育推進事業

- 1) 小中連携教育の確立を目指す「ろく・さんプラン教育」の実践（創新）
 - ・ 各中学校区において令和の新時代を捉えた新たなスリースタッフを作成する。
 - ・ 嬉野中学校区において、嬉野市教育委員会指定の小中連携学力向上事業に取組み、授業公開などを通して学力向上に向けた実践を発表し、指導方法を共有する。
- 2) 小中学校から中学校への滑らかな転学（創新）
 - ・ 学習面においてもスムーズな中学校生活がスタートできるように、「転学前の課題」の内容を工夫する。
 - ・ ノーデジタルリーダーの両目覚めなど一貫性、統一性を持った指導の在り方を研究する。

【嬉野っ子ワクワクデザイン 令和4年】

2. 「校長先生の知恵袋事業」を活用した取組

本事業を活用した各学校の取組について、その一部を紹介する。

(1) 自校の特色づくりに関する活動

①【大野原小中学校】バイオリンに親しもう

大野原小中学校は、県境の山間部に位置し全校児童生徒31名の小中併設の学校である。地域住民のバイオリニストを講師に招きバイオリン演奏の指導を受け、文化祭などで保護者や地域住民に演奏を披露している。令和3年度には、講師が作曲したメロディーに児童生徒が歌詞を付けた「心の故郷」を完成させ、披露した。



写真① 大野原小中学校文化祭

②【嬉野中学校】ロボットコンテスト

機械の仕組みを知り、応用・調整し工夫していく中で、ロボティクスにおける技術開発のすばらしさに気付かせるというねらいで、平成30年度から毎年度実施している。様々な工夫と作戦を立ててロボットを製作する活動を通して、生徒は他者と協働することの意義を体感しており、プログラミング学習の一環として、生徒の論理的思考力の育成にもつながっている。



写真② ロボットコンテスト

③【吉田中学校】国際交流

様々な国の人と交流し、外国の文化に触れることにより、自他の文化の違いやよさについて関心を高め、さらに理解を深めようとする態度を養うことを目的とし、1年生と2年生を対象に、年間3回程実施している。令和4年度は、ドイツ出身で県内の他市町に在住する国際交流員、市内に在住するエクスアドル出身の方と交流を行った。生徒は、交流を通して、ねらいとする態度を身につけることはもちろん、外国語を学ぶことの意義について理解を深めることができている。



写真③ 国際交流員との交流

④【轟小学校】キャラクター缶バッジ

轟小学校のオリジナルキャラクター「学ぶくん(知)」「心ちゃん(徳)」「元気ちゃん(体)」の缶バッジをそれぞれ作成し、毎月の「学習チャンピオン」には学くんバッジ、「生活チャンピオン」には心ちゃんバッジ、各学期の「皆勤賞」には元気くんバッジを渡している。子どもたちは、バッジをもらうことを励みに、毎日の家庭学習(自主学習も含む)にしっかり取り組んだり、生活目標を守って行動したり、皆勤賞を目指して頑張っている。



写真④ 左から「学ぶくん」「元気ちゃん」「心ちゃん」

(2) 児童・生徒の学力向上に関する活動

①【塩田小学校】文集製作

思い出は心と言葉に残したい、10年後、50年後、100年後も手に取って読んでほしいという思いから、全校児童、全職員で文集づくりに取り組んでいる。行事の思い出や体験したこと、「大好きな時間」等、テーマを決めて日常生活を振り返って書くようにしており、この取組を通して、子どもたちの表現する力が育っている。



写真⑤ 百年文集 どうせん

②【大草野小学校】アニバーサリーブック

読書教育推進の取組の一環として、平成30年度から、4年生へ10才を記念して、「2分の1成人式」等で校長からのメッセージを添えて、本を贈呈している。本は、リストの中から本人が選んだものを贈呈しており、子どもたちも楽しみにしている。この取組により、本をいつも傍らに置いて読書をする意識が高まっている。



写真⑥ アニバーサリーブックの贈呈

③【吉田小学校】話し方講座

子どもたちが、自分の考えや思いを表現できるように、元アナウンサーを講師に招き、全校児童を対象に年間計15時間の「話し方講座」を行っている。基本的な発音や発声方法、朗読や発表の仕方等、目的に応じた話し方や聞き手に伝わる話し方を学び、子どもたちは自信を持って話すことができるようになっている。



写真⑦ 話し方講座

④【塩田中学校】NIE教育

朝読書の時間に、毎週1回、「全校朝新聞」を実施し、生徒は新聞記事を読んで自分の考えを書いたり、それをもとにスピーチタイムをしたりしている。また、総合的な学習の時間等で学んだことを新聞形式にまとめたり、国語科や社会科の授業を中心に、教材として新聞記事を取り上げたりしている。取組を通して、生徒の読解力の向上や、社会情勢への関心の高まりなどにつながっている。



写真⑧ 朝の「全校朝新聞」

(3) 体験学習の充実に関する活動

①【五町田小学校】バターづくり体験

3年生の「総合的な学習の時間」で、校区内にある酪農家を訪れ、乳牛の様子を観察したり、心音を聞いたりして、命の大切さを学習している。バターづくり体験も行っており、食に携わる方への感謝の気持ちが育っている。



写真⑨ 牛の観察

②【久間小学校】久間っ子農園

令和2年にPTA父親部と有志が敷地内にある空き地を開墾し、子どもたちが「いきいき久間っ子ファーム」と名付けた。「久間っ子ファーム」では、全校でさつまいもや野菜などの作物を育てている。活動を通して子どもたちは自ら育てた作物のありがたさを感じ、また苗植えなどから収穫までを自分たちの手で行うことで、達成感や自己有用感を味わっている。



写真⑩ いきいき久間っ子ファーム

③【嬉野小学校】地域体験学習

嬉野は全国有数の温泉地であり、嬉野小学校校区にはいくつもの温泉旅館が軒を連ねている。小学2年生の生活科の学習で、温泉体験学習を行っている。嬉野温泉の魅力や秘密を体感させることで、子どもたちの郷土愛の育成に大きく寄与している。



写真⑪ 温泉旅館の見学

3. 成果

「校長先生の知恵袋事業」の取組は今年で15年目となる。これまで、本事業を有効に活用することで、各学校が所在する地域の伝統や文化、環境を生かした取組や地域人材と連携・協働した取組等がなされ、それぞれの学校ならではの特色ある、魅力ある学校づくりを推進することができた。

また、近年は、校長が掲げる学校教育目標の具現化にも独自性が見られるようになり、学校長のマネジメント力の向上につながっている。

さらには、学校の中、校区だけで完結するのではなく、校区や市を超えた広い地域へ発信する取組も充実してきている。

例えば、嬉野中学校では、「写真版ぱらぱら漫画」という取組を平成29年度から6年間実施している。今年度はテーマを「うれしの」と設定し、嬉野市ならではの温泉やお茶、観光地などを、生徒が写真でのぱらぱら動画に表現した。上位3作品を西九州新幹線嬉野温泉駅前のインフォメーションセンターや市役所の窓口など4か所で放映し、

地域や保護者、観光客から好評を得た。

また、大野原小中学校は、今年、佐賀県NHK音楽コンクールに小学5・6年生と中学生が出場し、昨年度作成した「心の故郷」を歌とバイオリンで披露し、大野原小中学校の特色である「バイオリンを活用した教育活動」を、県内外の多くの方に紹介することができた。

おわりに

冒頭で述べたように、今日の学校教育に求められる課題はますます複雑、多様化している。

「子どもは将来にわたる地域の宝」である。嬉野市民の教育に対する期待は非常に大きく、本事業に係る経費については、市の一般財源（「ふるさと応援寄付金」）からいただいている。

本事業がこれまで以上に必要なものであると認知され、今後も継続していけるように、家庭、地域に信頼される学校づくりを目指し、各学校長の強力なリーダーシップのもと、家庭や地域と連携し、そのマネジメント力を生かすことで学校教育目標の具現化や様々な課題の解決に努め、特色ある、魅力ある学校づくりを力強く推進していきたい。